

第3章

計画の理念と目標

1 計画の基本理念とめざす環境像

多摩市環境基本条例（第3条）と前計画を基に、本計画の基本理念と「めざす環境像」を掲げます。

●計画の基本理念

環境への負荷の少ない循環・調和・共生を基調とした社会を
私たちみんなでもとに創り継承していきます

●めざす環境像

循環・調和・共生のまち みんなで創る多摩

—^{WA}和と^{WA}環と^{WA}輪のまちづくり—

和のまちづくり（調和）

「うるおいと安らぎ、健康と安全が確保された中で暮らせるまち 多摩」

深刻化する気候変動による気象災害や健康被害、生態系などへの影響に備え、社会・経済の基盤となる水やみどり与人々の生活が調和するまちづくりを進め、うるおいと安らぎ、健康と安全が確保されるまちを創ります（和のまちづくり）。

環のまちづくり（循環）

「自然の循環の中で人々が楽しく、生きいきと暮らせるまち 多摩」

みどりの豊かさ、多摩丘陵の里山の面影を残すみどり、自然エネルギーなどを地域の資源として活かすよう地産地消と資源循環を基調とするまちづくりを進め、快適な暮らしができ、活気と魅力を感じるまちを創ります（環のまちづくり）。

輪のまちづくり（共生・協働）

「みんなが身近な暮らしの中で環境について考え、行動するまち 多摩」

市民一人ひとりが日々の身近な暮らしの中で環境について学び、それぞれの生活・暮らしや価値観に応じて行動を実践し、さらに地域の環境保全活動への参加を通じて支え合いが生まれ、誰もが生きがいを感じるまちを創ります（輪のまちづくり）。

多摩市の「めざす環境像」



2 長期目標

長期目標は、めざす環境像を具体化するために、令和32（2050）年における多摩市の環境・社会を描いたもので、市民、事業者、市民団体等及び市に共通する目標として掲げます。

持続可能なみどりの保全

【共生】

みどりが豊かで多様な機能を発揮し、生き物を育み、人の暮らしに恵みを与えています。

【生物多様性】

生物多様性の基盤となる水とみどりのネットワークが広がり、都市におけるみどり・生き物と人が共生しています。

【樹林】

樹林地などの既存のみどりが適正に管理・保全されています。

【水辺】

残された良好な水辺環境が保全され、失われた水辺環境が回復しています。

【公園緑地】

良質な公園緑地が確保され、市民参加による維持管理体制が充実しています。

【歴史文化】

自然環境と調和し史跡文化財が保全され、歴史文化が継承されています。



安全・健康で快適な生活環境の実現

【生活環境】

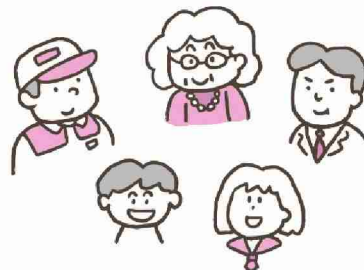
良好な大気、水、音、土壌が確保され、人々が健康的な暮らしを送っています。

【景観・美化】

みどりと都市の景観が調和する、良好な街なみが形成されています。

【気候変動への適応】

健全な水循環の確保、みどりの調整機能が活用され、熱中症被害や浸水被害などの気象災害のリスクが軽減されています。



令和5〔2023〕年度に、将来を担う世代（中学生から大学生など）が参加した「多摩市未来創造ワークショップ」、無作為抽出により選定された市民の皆さまが参加した「多摩市気候市民会議」で、30年後（2050年頃）に目指したい、多摩市の環境と社会のイメージについて話し合いました。これらのご意見・想いを基に、長期目標を設定しました。

持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会の実現

【住宅・建物】

省エネ・創エネ・蓄エネで、エネルギー収支が実質ゼロとなる住宅・建築物が普及しています。

【資源循環】

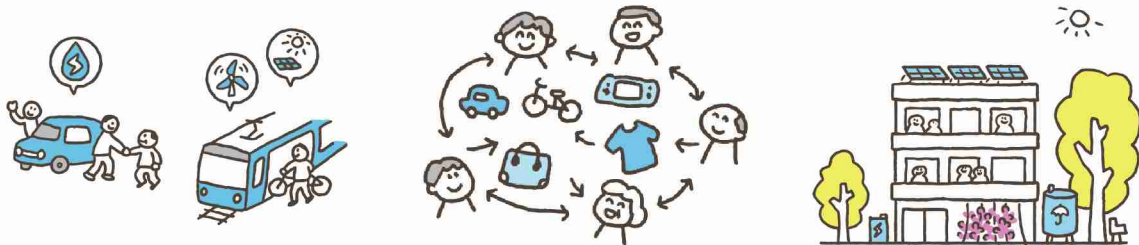
4R（リフューズ・リデュース・リユース・リサイクル）とリニューアブルによって、資源を大切に利用し、ごみを出さない暮らしを送っています。

【交通・移動】

CO₂の排出が少ない自動車や公共交通機関の利用が進むとともに、徒歩や自転車で移動しやすいコンパクトなまちになっています。

【脱炭素】

エネルギーの賢い利用、再生可能エネルギーへの転換が進んで、快適で利便性のよい暮らしとCO₂排出実質ゼロのまちになり、エネルギー・経済の循環にもつながっています。



環境共生都市を支える市民協働の実現

【行動変容】

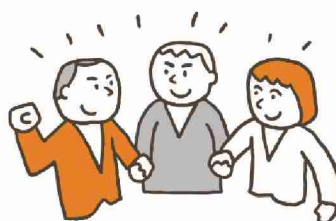
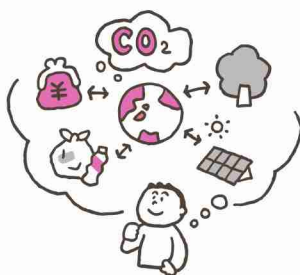
市民一人ひとりが環境問題を自分事として捉え、環境に配慮した行動を実践し、楽しさや心の豊かさも感じられる暮らしを送っています。

【環境教育・学習】

環境問題や気候危機についての教育・学習の機会が充実し、多摩市での取組みを情報発信しています。

【あらゆる主体の参画】

事業者や教育機関、市民団体、市等が連携・協働し、気候危機への対策を加速させています。



3 短期目標

短期目標は、市民、事業者、市民団体等及び市の協働により、令和15（2033）年度に達成を目指す目標です。

中長期的な視野で取組みを進めるため、長期目標を起点に、バックキャストの考え方で短期目標を設定しました。

未来を起点に考える
（バックキャスト）



分野	短期目標（令和15〔2033〕年度）	長期目標
自然環境	<p>自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 水とみどりのネットワークの回復・形成 多摩市の魅力である里山や公園などのみどりと、親しみのある水辺環境の保全・創出により、水とみどりのネットワークの回復・形成を目指します。 ◆ 生物多様性にも配慮した暮らしの実践 地域の自然を楽しむ活動への参加、自然資源の持続的な利用に配慮した製品・サービスの選択など、生物多様性にも配慮した暮らしの実践を目指します。 ◆ 持続可能なみどりの管理手法の確立 市民のみどりへの関わりを深めていくよう、持続可能なみどりの管理手法の確立を目指します。 	持続可能なみどりの保全
	<p>安全・健康で快適な生活環境の保持</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生活環境の保持 安全・健康に暮らすことができ、快適な生活環境の保持を目指します。 ◆ 気候変動への適応力の強化 まちづくりの様々な取組みにおいて、深刻化する気候変動の影響への適応能力の強化を目指します。 	安全・健康で快適な生活環境の実現
地球環境	<p>カーボンハーフの達成に向けた行動の実践</p> <p>省エネルギーの推進と再生可能エネルギーへの転換、資源の有効活用を図り、2030年カーボンハーフの達成を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ カーボンハーフ ◆ 資源循環 	持続可能で地球に優しいライフスタイルを取り入れた社会の実現
環境活動	<p>意識と行動の変革につながるムーブメント</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ムーブメントの醸成 市民一人ひとりの行動で社会を変え、社会の変化がさらなる意識と行動の変革につながるムーブメントの醸成を目指します。 ◆ 連携・協働して取り組む体制の構築 環境を支える人材を育成し、市民、事業者、市民団体等及び市が、連携・協働して取り組む体制の構築を目指します。 	環境共生都市を支える市民協働の実現

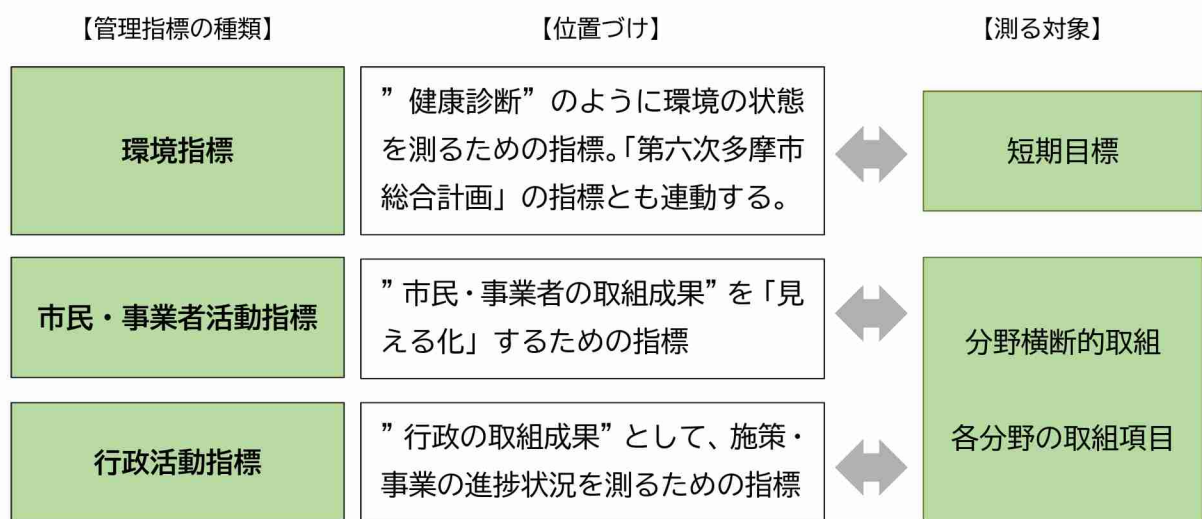
4 管理指標

管理指標は、令和15（2033）年度までの短期目標の達成度や取組みの進捗状況を測るための“ものさし”として設定します。

「短期目標」の達成状況は、環境の状態を測るための「環境指標」により把握・評価していきます。また、市民、事業者、市民団体等及び市による取組みの進捗状況は、「市民・事業者活動指標」と「行政活動指標」により把握・評価していきます。

なお、各指標の現状値・目標値は、「第4章 目標達成に向けた重点戦略と分野横断的取組」と「第5章 分野別取組」に掲載します。

●管理指標の位置づけ



●管理指標

分野	短期目標	管理指標			
		環境指標	市民・事業者活動指標	行政活動指標	
自然環境	自然と暮らしが調和した多摩のみどりづくり	◆水とみどりのネットワークの回復・形成 ◆生物多様性にも配慮した暮らしの実践 ◆持続可能なみどりの管理手法の確立	・ 生物多様性の拠点（3地点）の在来生物の種類数【定性指標】 ・ みどり率（%） ・ 水辺・公園緑地の環境に対する市民満足度（%）	・ 身近ないきものの投稿数 ・ 生き物調査隊への参加人数 ・ みどりの市民活動団体数	・ 市民又は市民協働による、自然体験活動の回数 ・ 樹木管理取組実施状況【定性指標】
		◆生活環境の保持 ◆気候変動への適応力の強化	・ 大気汚染にかかる環境基準適合率（%） ・ 水質汚濁にかかる環境基準適合率（%） ・ ボイ捨てのないきれいなまちと感じる市民の割合（%） ・ 「過去（昭和52〔1978〕年～昭和62〔1987〕年）の10年平均：13.7℃）に対する、最近10年間の年平均気温の変化【定性指標】	・ clear sky サポーター登録への参加事業者数（延べ数） ・ 河川白濁等の水質事故件数 ・ まち美化キャンペーン（多摩市市民清掃デー、ごみゼロデー）への参加団体数・参加者数 ・ ハザードマップを確認している市民の割合（%）	・ アスベスト解体工事の事前調査に対する立入件数 ・ 工事業者等への河川汚濁対策の指導・啓発数 ・ まち美化キャンペーンの実施回数 ・ 開発事業、公共施設等（小規模建設工事を含む）における流域対策【定性指標】 ・ （仮称）多摩市下水道総合治水対策方針の策定【定性指標】
地球環境	カーボンハーフの達成に向けた行動の実践	◆カーボンハーフ	・ 市内の二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（t-CO ₂ ） ・ 市内のエネルギー消費量（TJ） ・ 太陽光発電設備設置容量（FIT制度）（kW）	・ 世帯当たり二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（家庭部門）（kg-CO ₂ /世帯） ・ 世帯当たりエネルギー消費量（家庭部門）（GJ/世帯）	・ 市施設における二酸化炭素（CO ₂ ）排出量（kg-CO ₂ ） ・ 市施設における電気使用量（kWh）
		◆資源循環	・ 総ごみ量（t） ・ 資源化率（%）	・ 市民1人1日あたりのごみ量（g/人・日） ・ マイバッグやマイボトルを持ち歩く市民の割合（%） ・ 市民協働による河川清掃への参加人数	・ スーパーエコショップとして認定した店舗数を増やす【定性指標】 ・ 食べ切り協力店として認定した店舗数を増やす【定性指標】 ・ マイボトル用給水機の設置を増やす【定性指標】 ・ 市民協働による河川清掃での啓発実施回数
環境活動	意識と行動の変革につながるムーブメント	◆ムーブメントの醸成	・ 環境啓発イベントや環境学習の機会に参加している又は参加したいと考える市民の割合（%） ・ 商品を選択する際には、環境配慮マークやCO ₂ 排出量の表示を参考に選ぶ市民の割合（%）	・ 環境啓発イベントに参加した子どもの人数 ・ 「じぶんごとプラネット」に取り組んだ市民の数（延べ数）	・ 子どもを対象とした環境啓発イベントの実施回数（事業） ・ SNSによる環境情報発信回数
		◆連携・協働して取り組む体制の構築	・ 毎年度、気候市民会議を開催し、取組内容を1項目以上レベルアップしていく	・ 子ども未来会議を継続していく【定性指標】	・ 気候市民会議の開催回数【定性指標】